

# 企業の価値創造力を高める 知的資本経営



株式会社アクセル  
代表取締役社長 船橋 仁氏

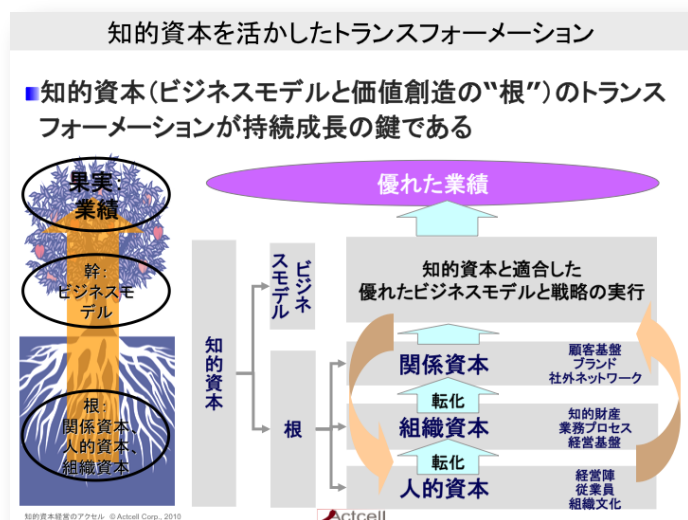
ビジネス環境が大きく変化している昨今、価値創造力を高めるための企業経営のキーワードとして、①工業化社会から知識社会へのパラダイムチェンジ、②マネジメント手法の変革、③競争力の源泉の変化が挙げられる。

木をビジネスに例えるなら、根と幹が知的資本であり、特に根は価値創造の根源となる。大量生産システムが幅を利かせた工業化社会では、品質が保証され、採算に合う生産プロセスがあれば、拡大成長する消費市場において豊かに実る果実が収穫できた。しかし、工業化社会から知識社会へのパラダイムチェンジが起きている現在はそうはいかない。

知識社会においては、計画重視から新しい価値をどう創造するかに力点をおく、変化対応型の創発重視にマネジメントの視点を移すことが必要だ。

ポスト工業化社会である知識社会の競争力の源泉は、バランスシートにでてくるものではない。人材が価値創造源なのである。価値を創造できる人材の存在、その人材力が組織力にどう転化され、それを顧客価値創造に転化していく連関が最も重要なことである。この価値創造の流れはバランスシートには勿論でてこない。経営者は、自社の知的資本を可視化して、どう高めていくかを考えなければならない。

それを理解した上で、3年後、5年後、10年後、会社をどうしたいのか、というビジョンを明確に持つことだ。知識者社会におけるマネジメントサイクルとして私たちが提唱していることだが、①自分たちの企業の強みの発見。具体的には、知的資本の特定とその可視化。②顧客、取引先、従業員などの重要ステークホルダから共感され納得できる戦略の立案、③戦略の実現のための行動のデザイン、④成果の実現、実践の振り返りという4つの手法を回していく。これは、企業の価値創造力を高め、持続成長実現を支える知的資本経営のコンセプトで、アクセルの支援の基本的なあり方だ。



■お問い合わせ  
株式会社アクセル  
<http://www.actcell.com/>